

亀岡の桂川の水害と遊水地開発問題

上野 鉄男

- ・ 亀岡市の桂川周辺では、これまで幾度となく水害に見舞われてきた。昭和 35 年（1960 年）には、浸水戸数約 1,400 戸、湛水面積約 700ha という戦後最大の被害が発生した。2013 年の台風 18 号による洪水では、浸水戸数 366 戸、湛水面積 282ha の被害が発生した。
- ・ 亀岡市の桂川は盆地の最下流の請田地点より下流は狭窄して保津峡となっており、このため洪水の流量が大きくなると河道に洪水が溜まって水位が上昇して水害が発生する。
- ・ このような洪水に備えて堤防が低い箇所（「霞堤」と呼んでいる）が 9 箇所あり、それらの周辺には広大な遊水地が存在し、この遊水地が洪水に対する浸水被害を軽減している。
- ・ その遊水地内で、JR 亀岡駅の北側で亀岡市が認可した 17.2ha の土地区画整理事業が進められ、遊水地に盛土がなされて治水効果が減殺されようとしている。さらに、その北側の遊水地では、亀岡市が進めている都市計画公園事業の 13.9ha の事業区域内の約 4.5ha に 4m の盛土をして京都府がサッカースタジアムを建設しようとしている。これらの開発面積の合計は 31.1ha で、2013 年の台風 18 号洪水による浸水面積 282ha の 11%になる。
- ・ 地元では、これらの事業に対して、「土地区画整理組合設立認可取消請求」（2014 年 12 月訴訟提起）と「都市計画公園事業認可取消請求」（2015 年 1 月訴訟提起）の裁判を進めているが、「遊水地が盛土で埋められると、洪水による被害が増大する」ということが裁判の主要な争点の一つになっている。
- ・ 2015 年 2 月に裁判を進める原告団と弁護団から相談があり、「亀岡の桂川の水害と遊水地開発問題に関する調査」を実施した。2015 年 8 月に 2013 年台風 18 号水害時の浸水状況と桂川の「霞堤」の実態について調査を実施し、その前後に関連資料を検討した。
- ・ 水害に対する開発事業の影響に関しては、京都府がスタジアム建設に伴う盛土の影響について明らかにするため委託した氾濫解析の資料を検討して、スタジアム建設に伴う盛土の影響について評価するとともに、その結果を適用して、区画整理事業の水害に対する影響について予測した。
- ・ **国土問題研究会 亀岡の桂川治水対策問題調査団**
 - 中川 学（河川計画）
 - 土肥 昌弘（農業土木）
 - 片山 輝夫（農業土木）
 - 上野 鉄男（河川工学）

亀岡の桂川の水害と遊水地開発問題に関する調査報告書（中間報告）

目次

はじめに

1. 亀岡の水害と治水対策

- 1.1 亀岡の過去の水害
- 1.2 桂川の治水対策について（保津工区）
 - (1) 治水対策の現状
 - (2) 今後の治水対策

2. 2013年台風18号水害

- 2.1 亀岡市と京都市における水害の概要
 - (1) 亀岡市における水害の概要
 - (2) 京都市における桂川の水害の概要
- 2.2 2013年台風18号洪水時の洪水位と水面勾配
- 2.3 2013年台風18号洪水時の浸水状況調査
- 2.4 桂川の「霞堤」の実態の把握
 - (1) 「霞堤」の形態について
 - (2) 「霞堤」の開口部の標高と幅について
 - (3) 遊水地への洪水の流入について
- 2.5 各「霞堤」地点の洪水位と浸水位
 - (1) 各「霞堤」地点の洪水位、越流水深と浸水位
 - (2) 各「霞堤」地点の洪水位と浸水位の関係
- 2.6 2013年台風18号洪水の特徴
- 2.7 2013年台風18号洪水時の日吉ダムの洪水調節について

3. 亀岡の遊水地開発問題

- 3.1 遊水地開発問題の概要
- 3.2 スタジアム建設が水害に及ぼす影響
 - (1) スタジアム建設が水害に及ぼす影響
 - (2) スタジアム敷地外での掘削等の対応について
 - (3) 京都府の氾濫解析の問題
- 3.3 区画整理事業が水害に及ぼす影響
 - (1) 土地区画整理事業への京都府の氾濫解析の結果の適用
 - (2) 氾濫現象を考慮した流出解析について
- 3.4 桂川の水害における亀岡の遊水地の役割

4. 地域の安全と自然環境を守る運動

- 4.1 スタジアム用地選定の経緯
- 4.2 地元の反対運動の経過

まとめ